気象庁
Japan Meteorological Agency

お　知　ら　せ

令和２年１月６日
福岡管区気象台

2019年の九州北部地方（山口県を含む）の天候（確定版）

- 冬（2018年12月～2019年２月）は、2007年と並び最も高温となりました。
- 春の日照時間は、統計開始（1946年）以降、最も多くなりました。
- 夏は、７月と８月後半を中心に前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、不順な天候となりました。
- 梅雨入りが統計開始（1951年）以降、最も遅くなりました。

2019年の天候の特徴は以下のとおりです。

○冬は北からの寒気の影響が弱かったことから、統計開始（1946/1947年冬）以降、2007年と並び最も高温となりました。

○春は期間を通して高気圧に覆われる日が多く、日照時間は統計開始（1946年）以降、最も多くなりました。

○夏は前線や湿った空気の影響で降水量が多く、日照時間は少なくなりました。特に８月28日は佐賀県や福岡県及び長崎県で大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など大きな被害が発生しました。

○秋は暖かい空気に覆われ、気温がかなり高くなりました。

○梅雨入りは６月26日ごろと、統計開始（1951年）以降、最も遅くなりました。

※1 九州北部地方（山口県を含む）の気象官署、特別地域気象観測所を対象として掲載しています。

※2　平年値は1981-2010年の30年間の観測値の平均をもとに算出しています。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部
地球環境・海洋課　担当：川口
電話092-725-3613（内線3610）　FAX　092-761-1726

《季節毎の概況》

冬（2018 年 12 月～2019 年２月）は、統計開始（1946/47 年冬）以降、2007 年と並び歴代１位の高温となった。

西日本付近で偏西風が北へ蛇行したため寒気の影響が弱く、暖かい空気に覆われたため、統計開始以降では 2007 年と並び歴代１位の高温となった（図１）（表１）（表２）。

春（３月～５月）は、日照時間が統計開始（1946 年）以降、最も多かった。

期間を通して高気圧に覆われる日が多く、統計開始（1946 年）以降、春の日照時間として最も多かった（図３）（表１）（表２）。

夏（６月～８月）は、降水量が多く、日照時間は少なかった。

太平洋高気圧の北への張り出しが弱かったことから梅雨前線の北上が遅れ、梅雨入りが統計開始（1951 年）以降、最も遅かった（表４）。６月は梅雨前線の北上が遅れたことから、降水量がかなり少なく日照時間はかなり多かった。一方、７月は梅雨前線が本州南岸に停滞する日が多くなり降水量が多かったほか、長崎県の五島や対馬では記録的な大雨となった。

８月後半も前線や湿った空気の影響を受け、佐賀県や福岡県及び長崎県では記録的な大雨となった（図２）。

秋（９月～11 月）は、暖かい空気に覆われたため、気温がかなり高かった。

暖かい空気に覆われたため気温がかなり高くなり、牛深（熊本県）では歴代１位となる高温となったほか、山口や飯塚（福岡県）、佐賀、大分では歴代１位タイとなる高温となった（図１）。

12 月は、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なかった。

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、平年に比べ低気圧や前線等の影響を受けやすかったことから降水量がかなり多く、日照時間はかなり少なかった（図２）（図３）（表１）。

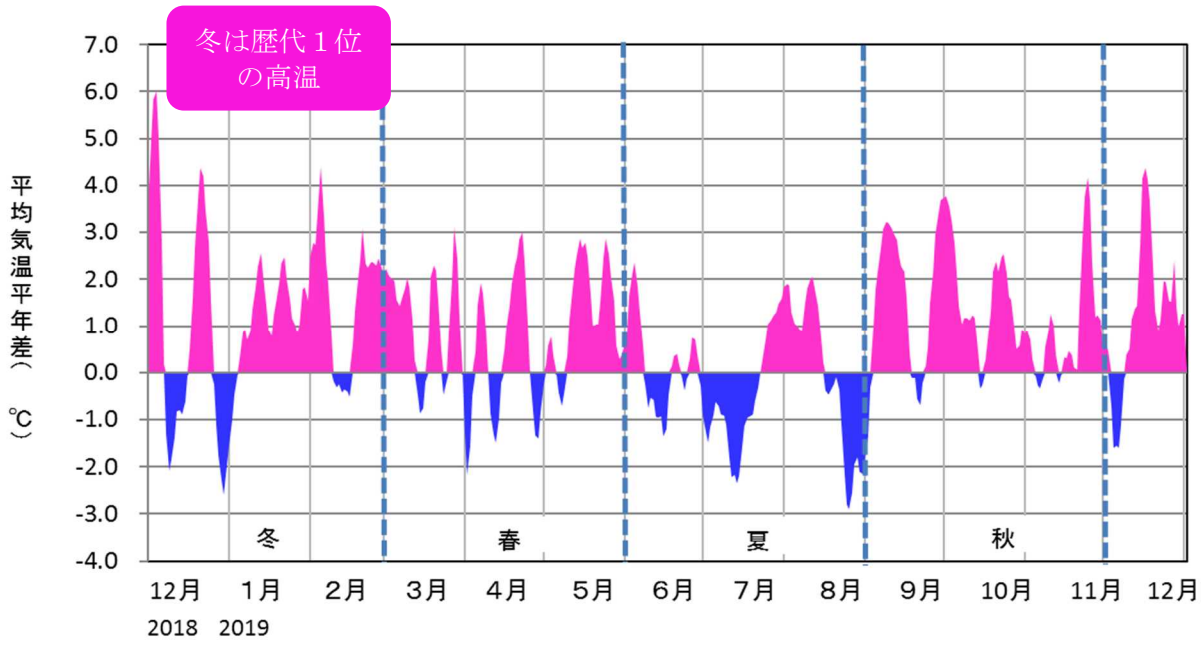

図１　九州北部地方の平均気温の地域平均平年差（５日移動平均）

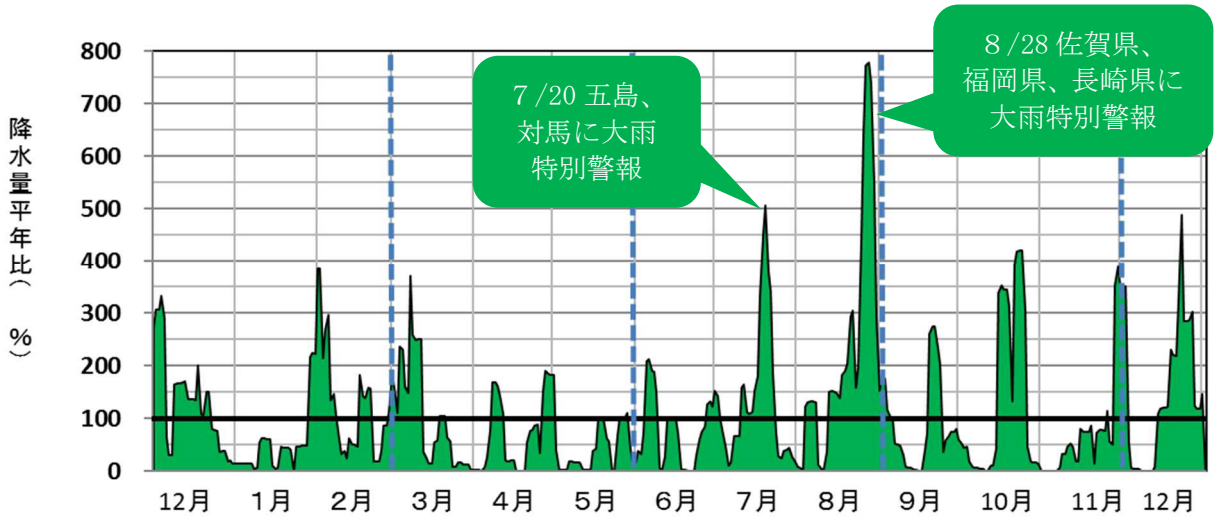

図２　九州北部地方の降水量の地域平均平年比（５日移動平均）

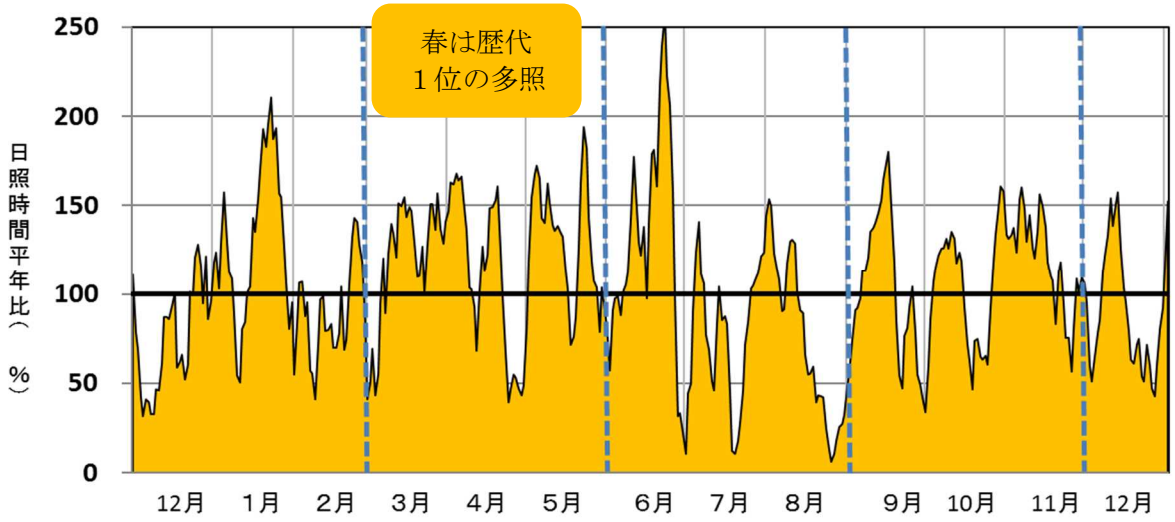

図３　九州北部地方の日照時間の地域平均平年比（５日移動平均）

表１　九州北部地方（山口県を含む）の平均気温・降水量・日照時間の地域平均平年差（比）

	平均気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
2018 年 12 月	高　い（＋1.1）	多　い（153）	かなり少ない（ 75）
2019 年　1月	高　い（＋1.2）	少ない（ 59）	かなり多い（127）
2月	高　い（＋1.7）	平年並（101）	少ない（ 89）
冬(12 月～2月)※	かなり高い（＋1.4）	平年並（103）	平年並（ 96）
3月	かなり高い（＋1.3）	平年並（ 99）	多　い（120）
4月	平年並（＋0.3）	少ない（ 80）	多　い（108）
5月	かなり高い（＋1.2）	かなり少ない（ 34）	かなり多い（130）
春(3月～5月)	かなり高い（＋0.9）	かなり少ない（ 68）	かなり多い（120）
6月	平年並（＋0.2）	少ない（ 65）	多　い（129）
7月	低　い（－0.7）	多　い（134）	少ない（ 76）
8月	平年並（　0.0）	かなり多い（241）	少ない（ 78）
夏(6月～8月)	平年並（－0.1）	多　い（131）	少ない（ 91）
9月	高　い（＋1.5）	平年並（ 94）	平年並（103）
10 月	かなり高い（＋1.6）	平年並（123）	平年並（ 99）
11 月	高　い（＋0.9）	少ない（ 38）	かなり多い（123）
秋(9 月～11 月)	かなり高い（＋1.3）	平年並（ 88）	多　い（108）
12 月	かなり高い（＋1.4）	かなり多い（182）	かなり少ない（ 82）
年(1 月1日～12 月 31 日)	かなり高い（＋0. 9）	平年並（104）	多　い（105）

平年値は 1981～2010 年の平均

※冬は 2018 年 12 月から 2019 年２月までの期間

地域平均気温平年差（比）は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい暖かい（多い）・寒いか（少ない）を地域全体でみるもので、九州北部地方（山口県を含む）の雲仙岳を除く 16 地点（表３参照）における平年差（比）を平均して算出しています。

表２　季節（３か月）の極値更新（九州北部地方平均、１位のみ）

要素	値（単位）	季節	これまでの極値 値（単位） （年）
平均気温平年差の高い方から（℃）	＋1.4（℃）	冬（2018 年 12 月～2019 年２月）	＋1.4（℃） 2007
日照時間平年比の多い方から（%）	120（%）	春（３月～５月）	119（%） 2013

平年値は 1981～2010 年の平均

表３　各地点の 2019 年の年平均気温・年降水量・年間日照時間

地点名	平均気温（℃）	平年差（℃）	降水量（mm）	平年比（%）	日照時間（h）	平年比（%）	「年平均気温高い方から」順位	統計開始（年）
山口	16.3	＋1.0	1974.5	105	1952.9	106	3	1966
下関	17.6	＋0.9	1607.0	95	1974.7	105	4	1883
萩	16.4	＋0.9	1761.5	106	1864.5	108	4	1948
福岡	17.9	＋0.9	1609.0	100	1982.0	106	4	1890
飯塚	16.5	＋0.8	1629.0	92	1880.5	103	3	1935
佐賀	17.7	＋1.2	2078.5	111	2041.9	104	3	1890
長崎	17.9	＋0.7	1788.0	96	1959.3	105	4	1878
厳原	16.6	＋0.8	2723.0	122	2006.7	108	2	1886
平戸	16.9	＋0.8	2438.5	116	1899.1	106	4	1940
佐世保	17.8	＋0.8	1853.0	95	2051.8	108	4	1946
雲仙岳	13.5	＋0.7	2593.0	89	1540.5	107	4	1924
福江	17.4	＋0.6	2979.5	128	1862.8	106	5	1962
熊本	17.7	＋0.8	2026.5	102	2070.0	103	5	1890
人吉	16.4	＋0.9	2376.5	99	1777.2	97	3	1943
牛深	18.8	＋0.8	1869.0	94	2083.8	107	3	1949
大分	17.4	＋1.0	1753.0	107	1980.1	99	2	1887
日田	16.4	＋1.0	1760.0	97	1819.1	101	3	1942

平年値は 1981～2010 年の平均

（注１）　これらは１月１日から 12 月 31 日までの観測値を使った集計結果である。
（注２）　平年差（比）は同期間の日別平年値を平均・合計したものに対する差（比）である。

＜九州北部地方（山口県を含む）の梅雨の記録＞

梅雨入りは統計開始（1951 年）以降、最も遅かった。梅雨明けは平年より６日遅かった（表４）。
梅雨の時期の降水量（６月と７月の降水量の合計）の地域平均平年比は 100%と平年並だった（表５）。

表４　2019 年の梅雨入り・梅雨明け※1

地域	梅雨入り	平年の梅雨入り	梅雨明け	平年の梅雨明け
九州北部地方	6月 26 日ごろ（かなり遅い）歴代１位	6月5日ごろ	7月 25 日ごろ（遅い）	7月 19 日ごろ

（※１）梅雨の入り・明けには平均的に５日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「○○日ごろ」と表現した。

表５　九州北部地方（山口県を含む）の主な地点の梅雨期間（６月と７月）の降水量

	地点名	降水量（mm）	平年比（%）	平年値（mm）
九州北部地方（平年比 100%）※2	下　関	493.0	88	561.9
	福　岡	389.5	73	532.7
	佐　賀	561.5	83	677.5
	長　崎	618.0	98	629.0
	熊　本	853.0	106	805.7
	大　分	589.5	112	526.3

平年値は1981～2010年の平均

（※２）九州北部地方（山口県を含む）雲仙岳を除く16地点での観測値を用い、梅雨の時期（６～７月）の地域平均降水量を平年比で示した。

＜九州北部地方（山口県を含む）に接近・上陸した台風＞（注）

2019 年の台風の発生数は、29 個（平年 25.6 個）であった（表６）。

九州北部地方への台風の接近数（上陸数を含む、注１）は５個（平年 3.2 個）で、台風第３号（６月 27 日）、台風第８号（８月６日）、台風第 10 号（８月 15 日）、台風第 17 号（９月 22 日）及び台風第 18 号（10 月２日）であった（表７）（図４）。

九州への台風の上陸数（注２）は１個で、台風第８号が８月６日午前５時頃に宮崎市付近に上陸した（表８）（図４）。

（注１）「九州北部地方への接近」は台風の中心が九州北部地方の気象官署等から 300km 以内に入った場合を指す。
（注２）「九州への上陸」は台風の中心が九州本土の海岸線に達した場合を指す。
（注３）値が空白となっている月は、平年値を求める統計期間内に該当する台風が１例もなかったことを示す。

表６　台風の発生数

	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	年
2019 年	**1**	**1**	**0**	**0**	**0**	**1**	**4**	**5**	**6**	**4**	**6**	**1**	**29**
平年値	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6

表７　九州北部地方（山口県を含む）への台風の接近数

	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	年
2019 年	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**	**0**	**2**	**2**	**0**	**0**	**0**	**5**
平年値				0.0	0.0	0.3	0.8	1.0	1.0	0.3			3.2

※本表は台風の発生月別にまとめたもの。台風によっては発生月と接近月が違う場合があるがここでは示さない

表８　九州への台風の上陸数

	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	年
2019 年	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**

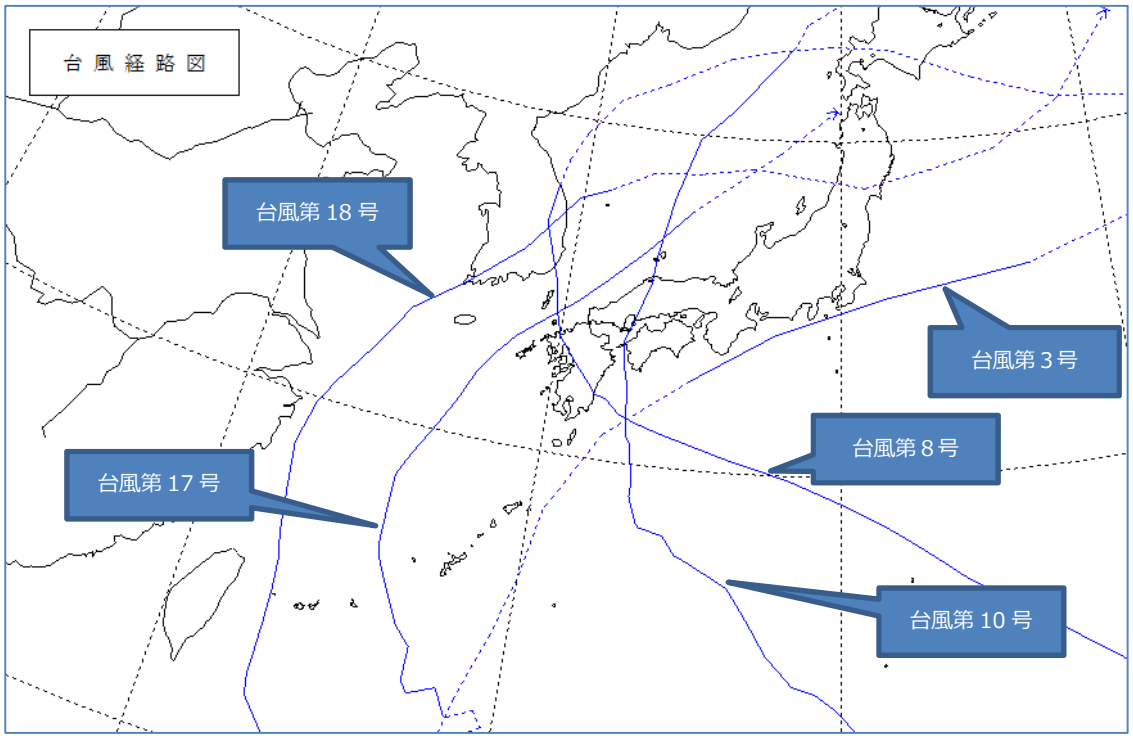

図４　九州北部地方（山口県を含む）に接近・上陸した台風経路図
実線は台風、点線は熱帯低気圧又は温帯低気圧を示す